

追手門学院大学図書館オーストラリア・ライブラリー

<日本人によるオーストラリア関係記録・写真デジタルアーカイブ>

写真展《オーストラリアで働き、暮らした日本人》

〔第1期〕2024年11月3・4日(日・月、本学学園祭)

〔第2期〕2024年11月中旬(未定)～12月24日(月)

茨木総持寺キャンパス図書館 (JR 京都線「総持寺」駅、北へ徒歩15分)

*11月3・4日は学外の方も自由に入れます。それ以降は3F 図書館入口のインターホンで来意を教えてください。

★今回の展示は、貿易商社「兼松」のオーストラリア駐在員として羊毛輸入に携わった、廣戸茂吉(ひろど・しげよし)氏、および曾野近一(その・きんいち)氏の家族写真である。同社は明治22年(1889)に神戸で「日豪貿易兼松房治郎商店」として創業、翌年シドニーに「兼松豪州支店」を開設し、羊毛輸入を開始した。オーストラリア連邦が成立する1901年以前である。その頃、日本国内の官民両面における洋装化に伴って羊毛市場は活況を呈し、兼松房治郎商店は大正7年(1918)に「株式会社兼松商店」と改組、同11年にはシドニー支店を現地法人化し、翌年メルボルン支店も開設した。

★廣戸茂吉氏は明治41年(1908)から2年間、Sydney Technical Collegeにおいて wool classing courses を受講し、1911年に兼松シドニー支店に入社した。現地法人化後は代表専務取締役を務め、1938年に帰国した。写真アルバム全4冊をオーストラリア・ライブラリーにご寄贈くださった兵庫県在住の目瀬静江(めせ・しずえ)氏は、茂吉氏の長女として1924年にシドニーで生まれた。収録される写真は1935～37年頃を中心とし、ニューカッスルやキャンベラへの旅行写真は、当時シドニー在住の写真家鍵山一郎(かぎやま・いちろう)氏を同行しての貴重な記録である。

★曾野近一氏は大正11年に兼松商店入社、昭和2年に渡豪した。いったん帰国し同7年に結婚後再び渡豪、メルボルン支店/シドニー支店を歴任した。写真アルバム全9冊400点余りをご提供くださった東京都在住の曾野豪夫(たけお)氏は、近一・慰(やす)夫妻の長男として1933年にシドニーで生まれた。写真は家族が日本に引き揚げる1941年まで続き、手撮りのスナップ写真が多いが、鍵山一郎氏の撮影も混じる。近一氏は42年に「交換船」により帰国したものの、43年に海軍徴用船に乗りインドネシア・カリマンタン島へ渡航の途上、アメリカ軍の魚雷を受けて没した。日本とオーストラリアが太平洋を挟んで敵対するなど想像もしなかった時代の笑顔が写真にはある。

(解説:追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所客員研究員 名誉教授 南出 眞助)

*上記のデジタルアーカイブには、QRコードから容易にアクセスできます。



この企画は豪日交流基金の助成を受けて開催しています

 追手門学院大学

《廣戸 茂吉》

シドニー、ニューカッスル、キャンベラ旅行マップ

